

平成31年 3月 市長定例記者会見

2019年 2月14日(木)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成31年 3月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数でございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後はお切りいただきますようよろしくお願いいたします。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 では、よろしくお願いいたします。

少し3月には早いんですけれども、議会がありますので、任期最後となります3月議会に向けての3月定例記者会見ということで、よろしくお願いいたします。

31年度当初予算や3月の補正予算を計上させていただいて、しっかりと説明していきたいと考えております。

また、最近の出来事としまして、ドライブレコーダーの見守り活動ということを「見守るカー敦賀」という愛称で進めさせていただくことになりました。今募集中でございまして、今月の25日には出発式を行う予定でございまして、ぜひとも市民の皆さんもドライブレコーダーをつけていらっしゃる方は登録をしていただいて、みんなで見守り活動に参加していただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それから、昨日ですけれども、福井しあわせ元気国体・元気大会の委員会の解散式を行わせていただきました。無事に国体・障スポの活動を成功裏に終えることができましたのも、大会関係者やサポーターの方々、そしてまた市民の皆さんのご協力があったからこそでございます。本当に感謝申し上げます。

それからまた、大会で得られました貴重な経験や市民総参加でのおもてなしの活動というのを今後の本市のスポーツの振興をはじめ、まちづくりに生かしていきたいと思っていますので、どうか引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 本日の事業発表は4項目ございます。

1項目めは、平成31年度当初予算、平成30年度3月補正予算概要でございまして。

本市の平成31年度当初予算は、4月の統一選挙を控え、骨格予算となりますが、継続費、債務負担が設定された事業や早期に予算措置を必要とする事業を計上し、住民生活や円滑な事業実施に支障が生じないように留意いたしました。

予算編成に当たっては、第6次敦賀市総合計画後期基本計画「敦賀市再興プラン」に掲げた施策について、目標年次に向けた成果を上げるべく着実な事業の推進を図るため、基本目標に沿った事業に対し重点的に配分を行うとともに、さまざまな課題や地域経済状況

の変化に対応するため、事業について予算化しております。

その結果、新年度の予算規模は、前年度当初予算と比較して一般会計は1.3%の減、全会計では0.3%の減となったものであります。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配付しました資料のとおりでございますが、重点施策ごとに申し上げますと、「ぬくもりに満ちた子育て支援・地域福祉の推進」につきましては、消費税率の引き上げによる低所得者及び子育て世帯の消費に与える影響を緩和し、地域における消費を喚起、下支えすることを目的として、プレミアムつき商品券の発行に係る予算を計上するとともに、ひとり親家庭の子育てに関する経済的負担を軽減し、安心して子育てができるよう、放課後児童クラブ保護者負担金等の補助や学習支援に係る経費を計上いたしました。また、4月に開設予定の病児・病後児保育施設の運営経費を計上いたしました。

次に、「新しい交通ネットワークの形成とまちづくりへの展開」につきましては、本市の玄関口であるJR敦賀駅や観光資源が集積する金ヶ崎周辺エリア等にレンタサイクル拠点の整備を行い、二次交通の充実を図るとともに、観光客の周遊の利便性を向上するための観光案内看板の整備に係る工事費等を計上いたしました。また、北陸新幹線敦賀開業に向け、新幹線駅周辺の市道188号線の道路改良に係る工事費を計上いたしました。

「循環型社会の形成と環境の保全」につきましては、県からの委託金を活用し、海岸漂着物の回収、処理等を行い、環境美化に取り組むための経費を、また、下水道事業において、老朽化した集落排水施設の長寿命化を図るとともに適切な処理能力を確保するための機能診断及び機能保全計画策定に係る経費を計上いたしました。

「特色と強みを活かした産業の振興」につきましては、新たな産業創出に向け、民間企業が本市にて実施する再生可能エネルギーや省エネルギーの研究開発に要する経費に対して補助を行います。また、企業の園芸を支援するため、疋田区に建設予定の大株レタス植物工場整備に係る補助を行います。さらには、気比神宮を中心とする門前町活性化の担い手育成、空き店舗活用を支援する補助金や、敦賀港開港120周年記念事業開催に係る経費を計上いたしました。

「心豊かな人を育むまちづくり」につきましては、教育環境の充実を図るため、各教室に設置している大型ディスプレイや教育用コンピューター、学校間情報ネットワーク機器の更新を行うための経費を計上するとともに、さまざまな要因により学校生活に適應できない児童生徒の環境を改善するため、今年度に増員したソーシャルワーカーの体制を継続する経費を計上いたしました。また、国体開催によるスポーツ振興の機運の高まりを前進させるため、子供たちを対象とした著名アスリートの指導によるボールゲームフェスタの開催に係る経費や、奥の細道330年を記念した句会ライブの開催等に係る経費を計上いたしました。

次に、平成30年度3月補正予算について申し上げます。

まず、一般会計では、新年度予算に計上予定であった私立保育園の施設整備や松原小学校の給排水設備改修、各小中学校等特別教室へのエアコン増設に係る経費について、国の補正予算の獲得を目指して前倒しで計上いたしました。その他の予算といたしましては、職員の早期退職に伴う退職手当や、ふるさと納税を通じて全国からお寄せいただいた寄附金の各種目的基金への積立金等を計上いたしました。

次に、特別会計では、国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計において、保険給付費の不足見込み額を計上いたしました。

最後に、企業会計につきましては、下水道事業会計において、櫛川及び本町の雨水管渠の整備費を国の補正予算の獲得を目指し前倒しで計上いたしました。

以上が3月議会に提案します予算の概要でございます。

続きまして、2020年クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」の寄港スケジュールについてでございます。

初寄港を果たした2017年から毎年、敦賀港へ寄港していただいております大型外国クルーズ客船ダイヤモンド・プリンセスについて、2020年は敦賀港へ計4回寄港することが決定しました。乗船客から評価いただいている市民一丸となった心温まるおもてなしを実施し、歓迎したいと考えております。寄港日の予定は2020年ですけれども4月15日水曜日、8月27日木曜日、9月13日日曜日、11月6日金曜日で、いずれも朝7時から夕方18時までの寄港予定となっております。

次に、3番目の「在宅医療・在宅介護市民講座」の開催についてでございます。

在宅医療や在宅介護の現状を理解し、自分や家族の将来を考える機会となることを目的に、市民対象の講座を3月17日日曜日の13時30分からあいあいプラザにおいて開催します。講師に終活ジャーナリストの金子稚子氏をお迎えし、夫の流通ジャーナリストの金子哲雄氏を看取られた体験談を交えてご講演いただきます。講演題目は「大好きなわが家で最期を迎える ～家での看取りは怖くない～」という演目でございます。どうぞ皆さん、ご参加ください。

それから最後の項目でございますけれども、市立敦賀病院市民公開講座の開催についてでございます。

市立敦賀病院では、地域の皆様に信頼され、また親しみやすい病院づくりを実践するため、毎年開催しております市民公開講座を平成31年3月24日日曜日の13時30分から16時までプラザ萬象において開催します。今回は、身近な問題として尿トラブル、糖尿病の予防に焦点を当て、市立敦賀病院の泌尿器科及び内科の医師が講演します。ぜひご参加ください。講演題目は、「おしっこの悩み～子どものおねしょから大人の尿トラブルまで」と、もう一つは「糖尿病なんて怖くない～これからも食べる幸せと健康を～」という題目です。どうぞよろしく申し上げます。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。最初に幹事社さんから、よろしくお願ひいたします。

【記者】 予算のことで1点です。

骨格予算というふうに伺いました。ハーモニアスポーツ構想の予算が、先導事業費が含まれていますが、予算そのものというか、構想そのものを3月末までにまとめるというスケジュールについては変更がないのかということを確認させてください。

【市長】 部長のほうから答えます。

【企画政策部長】 ハーモニアスポーツ構想につきましては、今年度末までが業務委託の期間となっておりますので、発表につきましては、その後、4月以降になる予定でございます。

【記者】 あともう一つ、クルーズ客船の話がありましたけれども、2020年ということですが、今年、19年は一つで、11月16日ということで。

【市長】 一つです。

【記者】 わかりました。

【記者】 新規事業で、敦賀港開港120周年に関してなんですけれども、主な事業の中で見学会と総会がありますけれども、これ以外にほかに何かございますか。

【市長】 全体のスケジュールは部長のほうからお答えします。

【産業経済部長】 まず今回の当初予算の部分につきましては、敦賀港の見学会ということで、北陸地方整備局敦賀港湾事務所の業務艇「まつかぜ」という船を利用いたしまして、市内小学生を対象にしてまず船内で敦賀港の港内を回っていただくということと、あとは港湾の関係の施設の勉強会、そういったものを取り混ぜて計画をしているものを今回挙げさせていただいております。

それと、港湾都市協議会の総会の日が7月25、26日と総会がもう決定しておりますので、そういった部分の負担金とか、そういったものを今回当初で入れさせていただいております。

ただ、これから秋口とか、これからの部分も計画を練っているところでございます。そういった部分につきましては、次の6月の補正予算という形でまた予算計上を考えているところでございます。

以上です。

【総務部長】 ちょっと補足でございますけれども、昨日行いました事前のレクチャーの中では、この120周年につきましてまとめた一枚もののペーパーをお渡しさせていただきましたので、もしお持ちじゃなかったら、これにつきましても後ほどまたお渡ししたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いさせていただきます。発表項目につきましてご質問がありましたら挙手のほうをよろしくお願いいたします。

【記者】 新年度当初予算案の編成方針、市長選を控えての骨格予算ですが、そこで留意された点を市長から改めてお聞きしたいなと思います。

【市長】 4月に市長選と市議会議員選挙が執行されますので、今回は骨格予算となりますけれども、政策的経費についても、継続中の事業や行政運営上早期に予算措置を必要とする事業については予算計上させていただいて、市民生活や、また円滑な事業運営に支障がないようにということを留意させていただいたつもりです。

それから、予算編成に当たりましては、先ほども申しましたけれども敦賀市再興プランに掲げた政策がありますので、目標年次に向けた政策を挙げるべく、もともとの基本目標がありますので、そこに沿った事業ということで予算配分をさせていただいたという形です。

あと継続、今やっている事業がありますので、その部分が載っていますので、幾分か重たい予算になったものと考えています。

【記者】 大型プロジェクトが継続している中で、歳出面が多分膨れ上がっているという形なんだろうけれども、4年前の骨格予算と比べて大幅にアップしてしまっていて、多分6月の補正後というのは一般会計が過去最大規模になるんじゃないかと見られますけれど

も、予算が膨れ上がっている状況についてはどう考えられていますか。

【市長】 予算が大きくなるものとしみますと、庁舎関係がありますので、それが一番大きなものなのかなと思っております。

あとの詳しいのは部長のほうから答えます。

【総務部長】 今市長から出ました市庁舎整備とか、あるいは小中一貫、こういったものが非常にハードでは大きなものになってまいります。残りの再興プランに沿った具体的な、政策的な部分での補正につきましても、検討して加えることになってくると考えております。

【記者】 中期財政見通しが去年のやつから更新されてないので、ちょっと忘れてしまっただけですけども、今後また処分場関係とかの大型プロジェクトも控えている中で、歳出がふえる分は市債で賄う分も結構あると思うんですが、そこが膨らんでくることに対しての財源的な見通しというか、どういう見方で膨らんでもいいと思っておられるのかというところを市長にお伺いしたい。

【市長】 財源の見通しという部分ですけども、私が市長になったときには財政調整基金を毎年3億ずつ崩していかないとなかなかうまくいかないという状況でしたけれども、そういう状態ではなくなりましたし、少し3年間でですけども基金も増額できましたし借金も減らすことができましたので、今後の大型プロジェクトを見越してそういうことをやっていますので、しのいでいけるというふうに考えているんです。ですから長期的にも耐えていけるという見通しの中でさせていただいております。

【記者】 ちょっと話題を変えてもいいですか。

ダイヤモンド・プリンセスなんですけれども、2020年は春夏秋というところで年4回というのは過去最高ということで、これまで初年度が2回の寄港で、あと毎年1回ずつ寄港していたのが一気に4回に増えた要因というか、どういうところが評価されたと思われているのか、市長に。

【市長】 ありがとうございます。私の感じているのと部長の感じているのと違うかもしれませんが、ダイヤモンド・プリンセスについては、カーニバル・ジャパンという代理店があります。そちらのほうでいろいろ要望にも行きますし話をさせていただいたときには、カーニバル・ジャパンの日本の評価はすごく高いです。日本での評価は敦賀市は高いです。ただ、アメリカの会社でするので、アメリカでは敦賀ということを知られていませんよというお話が結構続いて、なかなか前に進まなかった事情がありますけれども、上海とかアメリカでやる商談会みたいなものがありますので、そういうところに県と市とあわせて参加したりとか、そういうところで少しずつ知っていただいたというのがあると思います。

もう一つは、敦賀を出港される時にお客様が鈴なりになってこちらに手を振っていただけなんですけれども、あれは敦賀だけの現象だというふうに伺っています。ですからそういう意味では非常に受けがいいんだろうと。非常に満足度が高いんだと感じています。

その中で、いろんなイベントをしていいのかなというふうに思っていましたけれども、評価とすると、まちがきれいだということと、それから、まち全体が歓迎しているという表現でお話をいただきました。まち全体で歓迎しているというのはどういうことなのかということをお聞きしたら、来るのを嫌がる住民の方がいらっしゃるまちもあると。と

ころが敦賀の人はみんな歓迎する。それが表情とか目でわかる。それが非常に旅行く人にとっては嬉しいということをお話いただきました。

部長のほうから補足します。

【産業経済部長】 今市長が申した部分が大きい要因だと思いますけれども、行政だけでなく商店街さんとかいろんな民間さんの団体、そういったところのイベントをうまくこの日に合わせて、みんなでまち全体を盛り上げていただいているという傾向が出てきているのかなと。それと、観光ボランティアガイドさんとかクルーズボランティアさん、あと敦賀高校の若手の方々、そういった方々が皆さん乗組員の方とか、あとは乗船客に対しても、そういうおもてなしの部分が伝わっていたのかなというところは感じていますので、こういったところは、また継続していきたいと考えています。

以上です。

【記者】 関連してもう1点なんですけれども、敦賀の次に寄港するところが金沢となった影響からか、寄港時間が伸びたというところで、受け入れ体制とかはこれからなんでしょうけれども、どういう形で。年4回というのは初めてででしょうし、どういう形で受け入れ体制を充実させて、どうやって市民が歓迎していくような体制づくりをつくっていくのかというところを。

【市長】 まず私のほうから。4回も来ていただきますので非常にありがたいと思っております。北陸新幹線の敦賀開業が4年後に迫りましたので、たくさんの人が敦賀を訪れたときの対応策、どういうふうに対応したらいいのかという練習といったら失礼ですけども、そういうシミュレーションになると思いますので、敦賀だけで引き止めるのではなくて、敦賀の周囲の市町、嶺南とか福井県全体もそうですけれども滋賀県北部も含めて、そういうところに人がいろんなところへ行って敦賀の魅力を感じていただける仕掛けというのをどうつくるかというのが非常に大事だと思っています。

できればということをお願いして、うまくいくかどうかわかりませんが、できればサンダーバードの一部に専用車両をつくっていただいで京都まで行って帰ってこれると、もう一つ別の魅力が生まれるのかなというふうに感じていますので、それができればいいなと思っていますが、できるかどうかは今わかりません。

【産業経済部長】 今回、4月、8月、9月、11月という形になりますので、特に4月に関しては花換えまつり、そういったところと絡めたいとか、あとは8月、9月、特に平日と日曜日が1回ありますので、そういったところはこれからまた観光協会さん、商工会議所さん、そしてまちづくり関係団体、この日程を早く知らせて何とか一緒に取り組みができないかというまずは周知をして、一緒に何かイベント等を絡めていただきたいという思いがございますので、事あるごとにそういった部分は周知して一緒に取り組んでいきたいという思いでございます。

以上です。

【記者】 関連で、ダイヤモンド・プリンセスの経済効果を試算されていまして、お願いしたいのと、なければ過去3回どれぐらい敦賀市に経済効果があったのかを改めて教えていただければ。

【産業経済部長】 今、私どもで試算しているのは、福井県が試算した数字はあります。そういった中で、過去3回の部分でいきますと、2年前の9月2日につきましては約4100

万円、そして10月14日土曜日が4500万円、そして昨年の4月17日は3400万円。これはやはり平日というところがありましたので、そういった試算が発表されております。

ただ、今回もまた平日と日曜日ということがございますので、これは福井県の部分の試算でございますので、そういった経済波及が感じられるように市内全体にそういった部分がなればなと思っております。

以上です。

【記者】 ダイヤモンド・プリンセスの寄港で、実際、積み荷とかが発生したりはしないんですか。

【市長】 発生しないはずですよ。

【副市長】 フェリーではなく、客船ですから。

【記者】 敦賀のお土産を積み込むとか、そんなことはないですか。

【市長】 土産品は持って帰られると思いますけれども、全ての荷物を船に積むのではなくて、例えば刃物とかもたくさん買われるんですが、刃物は船の中に詰めませんので、郵送で送って受け取ってという形になるみたいです。ですから余り荷物が増えるということはないんじゃないかなと思います。

【記者】 市長、去年4月とかにもお話ししたんですけども、こうやって年4回も来るようになると、だんだん回数が増えてきたら母港化していくじゃないですか、何となく。そうすると実際に本当に積み荷の話とかになってくるんじゃないかなと。そこで例えば何か補給物資をやるとか、そういうようなことになっていくのかなと僕は思うんですけども、そうでもないんですか。どうなんでしょうか。

【市長】 前に寄港していただいたときは、いちほまれを積んでいただいて料理して出したということは聞きましたけれども、そんな大きな荷物がどんと行くということは余り考えてなくて、手荷物程度のもが増えるというのはあると思います。

【記者】 予算の関係なんですけれども、ちょっと戻ってしまって済みません。

税収の見通しは新年度に向けて明るい材料とかないんですか。町なかはとても交通渋滞で、北陸新幹線の影響なんかは、私もろに肌で感じるんですけども、何かしら税収の明るい見通しとかはないのでしょうか。

【市長】 税収の明るい見通しですか。

【記者】 ちょっと増えますよみたいなことはないですか。

【総務部長】 税収につきましては、ほぼ前年並みというような予想になっております。予算上では全体で334万円の微減という形で計上しております、今のところ翌年度といたしますか新年度において急激に伸びるというものは、今のところはございませんので。逆に固定資産税の関係とかで、もんじゅの廃炉とかそういったものの関係で若干落ちてくるものもございますので、プラスマイナスしまして全体として334万円の微減という形になっております。

先ほど他の記者さんの質問ございました肉付けの財源等につきましてでございますけれども、市長お答えあったように、それに備えるためにいろんな財源とかを確保しておりますということで、公共施設整備基金、これが平成30年度末で大体30億程度ございますので、その取り崩しとか、あるいは、できるだけ起債をするにしても後年度において交付税の措置があるような有利な起債、こういったものを取りにいくとか、特定財源、また国県補

助金とか、そういったものを使いながら、できる限り一般財源の圧縮、縮小、こういったものに努めてまいりたいというふうに考えております。

【記者】 ムゼウムの関係なんですけれども、今日の赤旗新聞に、命のビザ、植林焼失という記事が載っていて、時事の配信なんですけれども、イスラエルで杉原さんの記念碑も所在不明になっているとかという記事が載っているんですけれども。山が燃えて、杉原さんの記念碑もどこへ行ったかわからないとかという記事が載ってまして。

市長、直ちにコメントというわけではないんですけれども、私、ちょっとこれを見て残念かなと思ったんですけれども、市長はどんな感じですか。

【市長】 済みません。まだ記事を見ていませんので。

【記者】 エルサレムからの配信。なぜか赤旗新聞に載っていて。また後でも市長に。

【市長】 後で見せてください。

【記者】 予算の関係でお伺いします。ちょっと細かい話なので、総務部長のほうがいいかもしれませんけれども。

昨日いただいた資料で、全会計に占める電力関係の収入がどれぐらいあるかという資料をいただいているんですけれども、これの右下の総額の数字というのは一般会計に全て入ると考えていいのかどうかというのを確認したいのと、3・11以降、市内の原発は全部とまって、なかなか再稼働も見込めない状況が続いているんですけれども、今、大体50億近く入っているわけですが、この状況というのは10年ぐらいは、そう大きくは変わらないのでしょうか。今後の見通しとしてはどれぐらいのペースで減っていくのかとか、もしあれば伺えますか。

【総務部長】 まず、これらは全てにつきましては一般会計でございます。

あとは今後の収入の見込みでございます。これはやはり固定資産税、もんじゅ関係とか、あるいはふげん関係、有姿除却等を行っていますので、償却資産等は落ちてまいります。あと廃炉交付金についても遡減補助という形になっていますので、徐々にですけれども落ちてきておりますので、こういったものにつきましては個別に長期、実際の廃炉までしっかりと延長していただきたいというふうな要望も別途上げておりますので。

あとは自立発展枠、6月に先送りしました3億円ですけれども、これにつきましても、うちの2億円につきましては5年間の時限がついておりますので、その時点でどういうふうな国の判断になるかということにも左右されますので、どちらかというトマイナスのほうが大きな要因といいますか大きいかと思えます。ただ、核燃料税については、ほぼ横ばい、あるいは増加になってくるのではないかと。搬出促進割と価額割と出力割がございますので、その中で複雑に絡んでいまして、どの部分が増えてくるか減ってくるかというのは難しい部分がありますけれども、極端に総括しまして落ち込むということはないのではないかとこのように考えております。

【秘書広報課長】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思えます。こちらも幹事社さんから、ありましたらどうぞ。よろしく願いいたします。

【記者】 先ほどちょっとお金の話が出たので。先日、県の安管協（福井県原子力環境安全管理協議会）に行きましたら、廃炉交付金の関係で、石炭の産地を引き合いに出されて、原子力のエネルギーを支えるという意味で同じような役割を果たしてきたのにもかかわら

ず、廃炉の時代を迎えると財源的な部分で、制度が脆弱とおっしゃったのかな、というようにおっしゃっていました。予算編成、実際、1期4年、これは骨格になりますけれども、携わってこられて、実際に財源もしくは財源として、制度として使いづらいなというふうにお感じになったり、もうちょっとこういうところを改めてほしいなというふうにお感じになったりしたことはあるのでしょうか。

【市長】 この間出ていたのは、石炭の自治体は40年継続で支援があったんだけどという話でしたので。私らも廃炉を迎えましたので、廃炉で30年ぐらいかかるんですね。でも、廃炉しましたよと言ってから10年しかないということであれば、その用地については使えない時期が当然あるわけですし、余りにも早い支援の削減だというふうに思っていますので、この間の中塚町長がおっしゃったと思いますけれども、おっしゃるとおりに延長していただくのがいいんじゃないかなというふうに感じています。

もう一つは、エネルギー政策に協力してきて、先ほども出ましたけれども税収があるわけなんですけれども、じゃ協力しなかった自治体はどうなったのかということ、例えば敦賀市が協力しなかったら、そこで財政的には非常に辛い状態になっているんでしょうけれども、そうすると国の支援という割合が、交付税とかが多いはずなんです。そのギャップというのは何かジレンマを感じていまして。ですからエネルギー政策に協力してきた自治体はそんなに裕福じゃないんだという。たくさんもらったでしょうと言われながら、ほかの自治体はほかで手当てしてあるんじゃないですかというのがこの4年間で感じた率直な気持ちですね。ですから、国策に協力して痛みを感じてきた自治体には、もう少し手当てを厚くされて支援していただいてもいいのかなという気持ちであります。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社さん。——よろしいですか。

それでは、各社お伺いをさせていただきます。ご質問がありましたら挙手のほうをよろしく願いいたします。

【記者】 教育関係のことなんですけれども、先般記事に出ましたけれども、小学校で異物混入が給食にあったということで、上野教育長、続いているのかどうか私も心配なんですけれども、これまで把握しておられる経緯とかあったらご説明いただけないかなと思って。これ単発ですか。

【教育長】 単発です。

【記者】 これまでなかったですかね。教育長に着任されてから全くなかったか。

【教育長】 ございませんでした。

【記者】 各学校とかに注意喚起とかされたんですか。

【教育長】 それ以前に、給食時、異物が発見された場合の対応についてということで、校長会のほうとしては対応のマニュアルをつくっておりますので、校長先生方のほうでは十分対応しているというふうに私どもは認識しておりますし、今回の場合につきましても、昨年10月の話だったと思うんですけれども、すぐに保護者会を開催いたしまして事情等も説明したというふうに私どもとしては聞いております。

【記者】 わかりました。もう1点だけ。あの記事が載って以降、1回きりのことじゃなかったんだという電話が匿名でかかってきまして、これだけちょっと申し上げておきます。もしかしたら学校から報告がなかったかもしれないし。これは聞きおいてください。これ

だけ申し上げて。そういう電話がありましたということで。また注意してもらったと思います。

もう1点、吃音のいじめのことに関連なんですけれども、国のほうから何か指導はあったんですか。

【教育長】 ちょっとそのことについては承知してないんですが。国のほうからの指導？ 私は聞いておりません。

【記者】 一切なかったですか。

【教育長】 はい。

【記者】 教育委員会として、ああいう障害に対しての例えば教師への研修をやるとか、そういうことは予定ないですか。

【教育長】 そもそも特性のある子供さんということに対して、学校の先生方で対応するということにつきましては、当然言うまでもなく、それぞれの子供たちに対して丁寧に指導していくということは当たり前のございますので、それに対して、今回の事案ということにつきましては校長会を通じて、当然記事につきましては承知もしておりますし、それ以外につきましても、やはり吃音だけではなくていろんな子供さんに対して、それぞれその特性においてきめ細かく指導していくようにというお願いをしているところであります。

【記者】 一応とまっている状態なんですかね。

【教育長】 その後のことについては、子供さんは一生懸命頑張っているという話を聞いておりますし、学校の先生方の対応についても、特段保護者の方からどうだというふうなお話は聞いておりません。ただ、今後も注意深く、子供さんの学力保障というんですか、その子に限らずのことなんですけれども、やっていくということで、気を引き締めてやっていきたいなと思っております。

【記者】 敦賀市の人口が6万6000人を割ったということで、市長になられてから人口減少になかなか歯どめがかからなかったのかなと思うんですけれども、ここの要因分析をどう見られているのか。

【市長】 人口の増減については2つの要因を見ているんですけれども、一つは自然増減と社会増減を見ています。

自然増減につきましては、平成23年、ちょうど東日本大震災前後ですけれども、以前のときには自然減はなかったんですね。ですからそこについては、むしろプラスのほうの動きだったと思います。そこからずっと減ってきてまして、平成27年当時だとマイナス100人、今だとマイナス150人ぐらいまで来ているのかなと思いますが、亡くなる方のほうが生まれる方より多いという状況が続いています。

もう一つは社会増減で、出ていく人と入ってくる人ということになりますけれども、それについては大体300人ぐらいが平成27年ですと出ていった人がいたと思います。28年から少し緩和しまして、3分の1とか2分の1のレベルで28、29、30と来ていると思いますけれども、若干緩和したのかなというところは思いますけれども、やっぱり2月、3月に出ていく人が多いということと、4月に入ってくる人たちは新しい世帯を持ちますので、帰ってきた人たちではなくて新たに敦賀に移り住んだ方が多くて世帯数が増えているというふうに見ています。

その中で、工場誘致とか働く場所をつくろうということで、ずっと企業誘致をやっているんですけども、もう少しそういうインフォメーションが必要なのかなと。ですから高校の卒業式とか成人式とか、もしくは小中学生のときに地元の企業についての、すごいところだなという意識を持ってもらったり。もう一つは、都会に出た人に、たくさん企業もあるし働くところがあるんだから帰っておいでよというようなインフォメーションをするということで、新卒じゃなくても途中でも帰ってこれるような仕組みというのをつくっていかないと、なかなか人口減少の歯どめにはつながらないというふうに考えているんですけども。そういうことを少しずつやろうとしています。

【記者】 今月24日に政府主催で天皇陛下の在位30年記念式典が行われる。それに合わせて福井市では記帳所を設けたりとか文化施設を無料開放したりとか、そういうイベント的なことも考えているようなんですけども、敦賀市では今のところは特にないでしょうか。

【市長】 一応準備しているはずです。担当のほうからお答えします。

【総務部長】 記帳所につきましては、設置する予定で進めております。その他、今申し上げました施設の無料関係とか、そういった個別なものにつきましては検討中でございます。どうなるかは未定でございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして3月の市長定例記者会見を終わります。

ありがとうございました。

午後2時16分 終了